

アドバシの袋には「ひとりひとりの意識が変われば、地球の自然はきっと守れる。」というメッセージが。



活動前、吉野の合宿で実際に森林を見学し、間伐の大切さを実感。



木工教室やエコふろしき教室など企画からグッズ作製まで、エコイベントの運営はすべて生徒が担当。

[松蔭高等学校]

間伐材の“アドバシ”で 女子高生がエコを呼び掛け

形 や大きさは普通の袋入り割りばしと同じですが、はし袋の表面に企業の広告、裏にはイベントの告知と環境メッセージ、そして中には吉野の森林で伐採された間伐材を利用。これは、私立松蔭高校の生徒がさまざまな企業や団体と連携して作製したアドバタイズメント（広告）割りばし（通称アドバシ）です。

同校では毎年、卒業を控えた3年生への最後の進路指導として、地域や社会での活動を通じて多様な価値観に目を向けるチャレンジプログラムというキャリア教育を実施しています。その一環として昨年度展開したグリーンエコプロジェクト「グリーンエコキャラバン隊」は、環境をテーマに間伐材の利用を市民に広くPRすることで森林保全につながる活動です。20人の生徒たちが7万膳用意したアドバシを置いてもらえるよう市場やレストランなどに交渉したり、ラジオ番組に出演して社会の人たちに向けて環境メッセージを訴えたりしました。

「人工林の間伐は、CO₂をたくさん吸い込む元気な森を育てることにつながります。環境という大きな課題に身近な所からアプローチし、スタンダードからの変革を図ろうと、食卓に上る機会の多い割りばしに目を付けました」と説明するのは、指導を担当した谷口理先生です。

同プロジェクトでは、生徒が学校の外に出て積極的に働き掛けをすることにより、実際に社会に変化を起すことに重点を置いていきます。そのため、企業から協賛金を募り、それを活動資金にしながら社会とのかかわりを学ぶという、学校教育では先進的な形式を採用しました。

例えば、アドバシに掲載した4社の広告は、生徒が企画書を持って営業に回り、粘り強く交渉した結果、獲得したものです。「協賛企業の中には、生徒たちの活動を知って環境に絡めた商品を開発しようとして乗り出してくれた会社もありました。企業の行動も変えることができましたよ」

その集大成として2月下旬に神戸市内の百貨店で開催したエコイベントでは、2,000人以上を動員し、プロジェクトは大成功のうちに幕を閉じました。目標を達成し、そこで得た感動を自信へとつなげ旅立った生徒たちは、環境に対する意識が高くなり、使った割りばしは洗って再度使用する、コンビニで買い物袋をもらわないなど自主的に具体的な行動を取るようになったといいます。

「今年度はアドバシの路線を残しながら違う形のエコへのアプローチも模索していきたいですね」と前を見据える谷口先生。少しずつ社会を変えていく女子高生たちの挑戦は、今後とも脈々と受け継がれていきます。

松蔭高等学校

神戸市灘区青谷町3-4-47 TEL.078(861)1105 / FAX.078(861)1187

<http://www.shoin-jhs.ac.jp/>